



—パンフレット『高品質小麦生産への道のり』の追加について—

(平成23年11月発行 小麦普及啓発資料)

社団法人 北海道米麦改良協会

15 p [道東の施肥法] の一春以降の窒素追肥量の表内容に下記の 注1)、注2)の項目を付け加えさせていただきます。

道東の施肥法

基肥窒素量

通常は4kg/10aを施す。次の場合はN2kg/10aと減らす。ただし地力が低い場合はN4kg/10aとする。

基肥窒素を
2kg/10aとする条件

- 1) 圃場副産物のすき込みにより2kg/10a以上の窒素供給が見込まれる圃場。
- 2) 前作への堆肥4t/10a以上施用により2kg/10a以上の窒素供給が見込まれる圃場。
- 3) 前作付けによる窒素の吸い残しが予想される圃場。

春以降の窒素追肥量

表、収量水準と起生期以降の窒素追肥量

収量水準 (kg/10a)		0~60cm深の起生期の土壌硝酸態窒素分析値*に対応した 起生期以降の窒素追肥量(kg/10a)								
ホクシン	きたほなみ	0	2	4	6	8	10	12	14	16*
480	580	8	6	4	2	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)
540	650	10	8	6	4	2	(2)	(2)	(2)	(2)
600	720	12	10	8	6	4	2	(2)	(2)	(2)
660	790	(14)	12	10	8	6	4	2	(2)	(2)
720	860	(16)	(14)	12	10	8	6	4	2	(2)
780	930	(18)	(16)	(14)	12	10	8	6	4	2

窒素施用量の決定

窒素施用量は栽培の目安です。
地域の「ホクシン」の栽培と
収量の実績に照らして
施用量を決定してください。

注1)、注2) を追加

注1) 収量水準は「ホクシン」では、たんぱく含有率10%、「きたほなみ」では同10.5%を想定。

注2) 「きたほなみ」は、収量が多いことと、たんぱく含有率適正化のため、表中の窒素追肥量とは別に、止葉期に4kg/10aの追肥を行う。